

平成 29 年度 第3回学校協議会記録

1. 学校長挨拶

地方教育行政法、府条例の改正に伴い、来年度からこの会は「学校運営協議会」となる見通し。変更点は①学校経営計画について委員の「承認」を頂く。②人事について提案が出来る。(学校の方針に合わせて「こういう人を採用すべき」という提案。個別の先生を推薦するものではない。)以上 2 点。学校に対してご意見を頂くことは変わらない。今後ともよろしく願います。

2. 学校経営計画・評価

- ・「授業分かりやすい」は 65%。目標(80%)には達していないが、昨年より高い。概ね達成と見る。
- ・「家庭学習時間1H 以上」は 12.4%。目標(15%)には達していないが、昨年より少し高く、概ね達成と見る。
- ・「(学習)評価に対する肯定度」は 82%。テストだけでなく、普段の頑張りを評価できている。
- ・追認定指導、96%が参加。70%合格。不合格のほとんどが参加不十分という理由。先生からの熱心な声掛けが届かないのが残念。
- ・英語検定は 22.7%が 4 級合格、昨年より5%UP。
- ・全体を通して「学校でコツコツ努力しようとする生徒」を伸ばす事が出来ている。
- ・遅刻は 400 件減。欠席 1600 件増。「学校にきちっと来る」基本的な指導に力をいれることが必要。
- ・進路決定率 87.2%。昨年同時期より3%以上 UP。
- ・就職。一次斡旋の合格率は低かった。求人数増加により「(2次以降)受けるチャンスが多く有る」という意識と、生徒の希望を優先させ難関企業を受験させたことが要因と考えられる。その後、生徒は粘りを見せ2次・3次で内定を決めている。
- ・進学希望の生徒は四大・短大 42 名。専門学校も含めほぼ進路を決定している。
- ・部活加入率 40%。昨年度より5%UP。水泳部は近畿大会出場、陸上部は中央大会進出、バドミントン部は 2 部ベスト 16、書道部全国大会出場決定などが主な活躍。また、「コツコツと頑張る生徒」に対して熱心に指導を継続している。

3. 取組みの達成状況

1 年主任、2 年主任、3 年主任、生徒会、教務、進路、生徒指導、総務、保健各部署より今年度の達成状況を報告。

Q: 今年度は文化祭とオープンスクールを同時開催されたが、中3生はどれくらい来たのか？

A: 140 名。ほとんどが中3。別日開催だった一昨年は 80 名。かなり効果はあった。

4. 学校教育自己診断(アンケート)結果

生徒の項目について

- ・「学校であったことを家族と話す」という項目について肯定率高い(66%)。保護者が、子どものことに関心を持っていることの現れか。(保護者の項目「家庭で子どもの生き方や将来を話し合うことがある」肯定値89%。)
- ・「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」は新設した。今後、この項目の否定値が限りなくゼロになる事をめざしたい。
- ・3 年生は、肯定値がかなり高い。年次進行で肯定値が高くなるのは例年の現象、しかし、今年の 3 年生は群を抜く。
- ・2 年生は、「学校へ行くのが楽しい」否定値が高い。元気がない数字が並び心配していたが、修学旅行では力を出してくれた。数字ほど悪くないのが実感。学年の先生は、関係が「近い」分だけ、生徒に対する要求も高い。その分叱る事が多く、生徒が肯定感を得にくいのではないかと考える。
- ・1 年生の肯定値は、例年低い。2 年後を楽しみにしている。

保護者の項目について

- ・回答率が昨年度の 41%から 47%に増えた。生徒と向き合う保護者の割合が増えてきているものと見る。
- ・「授業参観や文化祭・体育祭など、学校で行われている行事には参加したことがある」について、毎年否定値が高い(40%)。設問の「聞き方」に問題があるのかもしれない。保護者懇談会などを含めると、ほぼ 100%の保護者が学校行事に参加している。さておき、学校教育に参加している意識の醸成を図っていきたい。
- ・全体を見て、肯定値が半分をきる項目は無い。良い保護者さんに恵まれている。

5. 校則等の点検・見直し

教頭:「問題行動等の対処に対する手引き」について。

教育庁から①内容の点検②学校協議会での協議③生徒会との意思疎通の3点について指示があった。本校では、マスコミが言っているような、「突然、強制的に、子どもの言い分を聞かない強引な指導」は行っていない。資料を参照していただき、世間の常識と乖離しているところは見直したい。

生指課長:「生徒手帳」「手引き(内規)」「宿泊研修時使用の「手引き」をひとつのものにまとめた。いずれも現状に合

わせ、実情に合わない古い内容は書き換えた。教頭：服装、頭髪、化粧、装飾品、遅刻指導等、府民との意識のギャップはないか、意見が欲しい。

《…特に意見なし。》

6. 協議

委員：気になったのは、1学年・2学年からの「対応難しい生徒」のコメント。「定員割れ」「小・中学校から対応必要な生徒の引継ぎができてない」等。課題が多いのは理解できる。その生徒に対する高校の対応を知りたい。

委員：アンケートの保護者項目「行事への参加したことがある」に対して「全くあてはまらない」の回答が 33%もある。PTA 活動の様子を見ても、参加者は特定の保護者に固定。全員 PTA に加盟しているのに自覚がない。「(PTA 役員から)連絡されたら困ります」という反応もある。子どものことに興味が無いのか。一方で保護者項目「家庭で子どもの生き方や将来を話し合うことがある」の肯定値は高い。矛盾を感じる。保護者は、子どもとはコミュニケーションを取るが、学校とのコミュニケーションは必要がないのか？

委員：保護者の中には「子どもは自立しているから何も聞かなくて良い」という人もいる。

委員：高校生になったら、仕事をしている親が多くなる。保護者と先生が話せる機会が、もう少しあれば良いと思う。

2 年主任：かつて平野高校が荒れていた時期は、「しんどい生徒」に重点をおいていた。現在、生徒は落ち着いている。その分、生徒に対する要求が高くなる。より「細かく」声かけできるようになった。兄弟、姉妹がいる生徒から「今までそんな事言われなかったのに」という声もある。「安心して授業が受けられる」状況ができた事で、「やんちゃな子に遠慮していた子」にとっては良い環境となった。一方で、「おとなしい子」に焦点を合わせるとギャップが出る。今、学校の潮流は変わりつつある。「細かい事まで言われるのが嫌」「もっと指導すべき」という両派が混在する。卒業後の自分をイメージさせ、それを見据えた指導であることを納得させたい。

生指課長：家庭で躰けられていない子や、一度も咎められた経験のない子もいる。小さい頃の教育は大切。その意味で小中学校の先生にはエールを送っている。もちろん高校も生徒への声かけを絶やさない。

教頭：南河内地区の支援学校グループ会議で本校の支援コーディネーターが発表した。テーマは「高校ってどういう所？」特性を持つ子でも、『死ぬ』『殺す』等の暴言を繰り返すと高校では懲戒になる。中学校以前でも特別扱いせず、暴言にたいしては指導して欲しいと要望した。小・中学校の先生は、暴言で懲戒となることに驚いていた様子。また、同じような事象で小・中学校の先生も困っている事がわかった。

委員：小中高それぞれがバラバラでなく、つながり、個々の生徒情報を共有し合って指導していくのが本当の姿。しかし、目の前の生徒対応で忙殺されてしまう。そこが難しい。頑張ってください。

7. まとめ

今日頂いた意見を来年度に活かしたい。